

狂犬病とは… 発症すると100%死亡する 恐ろしい病気です。

狂犬病とは

狂犬病は、人をはじめ、犬、猫、コウモリなどの全ての哺乳類に感染します。この病気は、狂犬病ウイルスをもった動物に咬まれたときに、その動物の唾液中に含まれるウイルスが傷口から体内に侵入することで感染します。

発症後は、治療方法がなくほぼ100%死亡します。



狂犬病の症状

(犬が発症した場合)

狂騒型と麻痺型といわれるタイプがあり、狂騒型では、極度に興奮し攻撃的な行動を示します。また、麻痺型では、後半身から前半身に麻痺が拡がり、食物や水が飲めなくなります。

(人が発症した場合)

強い不安感、一時的な錯乱、水を見ると首（頸部）の筋肉がけいれんする（恐水症）、冷たい風でも同様にけいれんする（恐風症）、高熱、麻痺、運動失調、全身けいれんが起こります。その後、呼吸障害等の症状が現れて死亡します。

狂犬病を防ぐには…

(狂犬病予防注射の接種)

人が感染する場合、感染源となる動物のほとんどが犬とされています。万一、狂犬病が日本に侵入しても、犬に狂犬病予防注射をきちんとしておけば、まん延を防ぎ、さらに人への被害も防ぐことができます。

(犬の登録)

万一、日本に狂犬病が侵入した場合に迅速な対応を取るためにも、どこで何頭犬が飼われているかを把握しておくことが重要です。必ず飼い犬の登録（生涯1回）をしましょう。

犬の所有者は、登録(生涯1回)と狂犬病予防接種(毎年1回)が、法律で義務付けられています。これらに違反すると**20万円以下の罰金**の対象になります。